
第21回福祉のまちづくりモデル地区推進部会 議事録

平成29年3月27日(月) 10:00～ 11:30 エコ計画浦和ビル3階西会議室

出席者 : 若林部会長、小川委員、木次委員、鯨井委員、國松委員、鈴木委員、町田委員

欠席者 : 上松委員、平林委員、丸山委員

関係団体 : さいたま市社会福祉協議会、さいたま市社会福祉事業団

事務局 : 西澤、田村、石川、田井(福祉総務課)

会議の公開 : 公開

傍聴人 : 0人

問合せ先 : 保健福祉局福祉部福祉総務課 048-829-1254

※敬称略

【次第】 1 開会

2 部会長の選任

3 議事

(1)平成28年度福祉のまちづくりモデル地区推進事業活動について

(2)平成29年度福祉のまちづくりモデル地区推進事業(案)について

4 その他

5 閉会

【内容】

1 開会

2 部会長の選任

委員の互選により若林部会長選任

3 議事

(1)平成28年度福祉のまちづくりモデル地区推進事業活動について

事務局 資料1の説明(省略)

若林部会長 ・資料 1 について、気になった点について申し上げます。まず、各標題が印刷の関係で見えづらい箇所もあるようですので工夫してもらえればと思います。また、ふれあい学習において、体育館で実施した「車いす学習」の写真は、もう少し動きのある写真があれば差替えをお願いします。

若林部会長 ・他に事務局の説明について、委員の皆さんご意見等がありますか。

國松委員 ・今回、さいたま新都心と自分の地域とを歩き、比較して実施したことは大変よい取組と考えます。都市部のバリアフリーは比較的整備されていますが、自分の住んでいるところはなかなか見直すことはないのでは気がつきにくいところもあるかと思っておりますので、比較して実施する

ことは大変良いことだと思います。

小川委員 ・今回の取組はすごく良かったと思いますが、最後の学習発表会では子供たちは、一斉に発表するので、声が聞き取りづらいということをすごく感じました。昨年の神田小学校のときも今回と同様でしたが、その前まではステージに上がってマイクを持って発表していたのでよく聞こえたのですが、今回の様にやってしまうと、良い発表をしているのに、なかなか聞きとれない。先生からは、大きな声で発表しましょうと途中アナウンスもありましたが、もともと大きな声で発表していた児童がより大きな声で発表することで、他の児童の声が余計に聞き取りづらくなってしまったこともありました。神田小学校では、全ての児童が発表したことで自信を持つことができた児童もいたとも聞いていますので、なんとも言えないところもありますが、そこで、一つ提案としましては、子供たちの作成した発表資料を事務局でまとめていただき、我々の方に提供していただくことはできないでしょうか。

事務局 ・小川委員からのご提案につきまして、発表資料を学校からいただき委員の皆様提供させていただくことは可能と考えますので、今後、対応させていただきたいと思います。

町田委員 ・発表会について、私たちは聴覚障害の講師として2名参加しました。聴覚障害について発表があるときには、そこに飛んでいって発表を聞きましたが、例えば、聴覚障害についての発表グループとするなど、発表する特性ごとにグループ分けがされているというのも良いのではないかと思います。また、今回の植水小学校の皆さんは、とても頑張っていました。以前の学校と比較しても非常に熱心に学習されていました。今後も引き続き頑張りたいと思います。

鈴木委員 ・この事業は、子供と大人が学び合うということに大変意義があると思います。特に子供たちの熱心な行動を見ましてとても感心しました。今後の進め方については、もう少し大人たちの参加が促進できれば、より盛り上がった事業になるかと思いました。個々の学習の実施の仕方については議論の余地もあるかと思いますが、この取組は続けていただきたいと思います。また、事務局に確認しますが、新都心のまち歩き学習の際に、他の小学校の児童がボランティアによる福祉学習をされていましたが、これを今後の事業の拡がりという意味で、非常に良い取組と思いますので実施したらどうかと考えますが、事務局はそのような事業を実施していることについて、事前に把握されていたのでしょうか。

事務局 ・さいたま新都心でのボランティアによる福祉学習については事前に把握しておりました。今年度の事業についても協力を依頼いたしましたが、日程が重なり実現しませんでした。来年度につきましては、協力をいただけるようお願いできればと考えております。

・なお、今年度につきましても、さいたま新都心駅周辺でのまち歩き学習において、コース設定の際にアドバイスなどのご協力をいただいたところです。

若林部会長 ・さいたま新都心でのまち歩き学習について、新都心には小児医療センターがあり、普通の病院と違い子供向けにいろいろな工夫がされています。時間的な課題もあるかとは思いますが、建物の中に入って見学していただくこともよいのかなと思います。

鯨井委員 ・私どもは知的障害の子供を持つ親の会です。知的障害について児童に理解してもらうことは、とても難しく、道具などを使って何かを体験するというのがなかなかできないものですから、ふれあい学習の際には、どのように児童に伝えるか毎回勉強させていただきながら、工夫して行っているところです。今回、植水小学校では、今までにはない感触で子供たちの理解を得られたと感じており、とても良かったかなと私たちも励みになったところです。また、学校周辺でのまち歩き学習の際に、これまでは他の特性を学ぶ児童と一緒に歩くことが多かったのですが、今回は知的障害を学習する児童たちだけと一緒に歩くことになり、知的障害の子供がいる場合には、歩くときのペースや看板に興味を持ってしまい立ち止まってしまうこともあること、また信号が青でも車が怖くてなかなか進めないことなど説明することができたので、良かったと思います。最後の発表会では、なかには誤解のある発表もありましたが、皆さん大勢いるところで指摘もできなかったのも、きちんと理解してもらうためには、私たちの努力がもっと必要なのかなと思いました。

若林部会長 ・ふれあい学習では、私も知的障害の学習の様子を見させていただきましたが、児童に理解してもらうために、いろいろと工夫されていて良かったと思います。

木次委員 ・発表について、4年生にしては、しっかりした視点で良くまとめられていると感じました。発表で終わらせないで、発表をしたなかの一つでも具体的に進めたものがあると、より自分たちの活動が次のステップに進むのではないかと思います。

若林部会長 ・鯨井委員から発言があったように、発表の内容に誤解があった場合には、それを指摘できるような、例えば講師からの講評の機会を設けるなどの工夫が必要だと思います。
・また、報告書案で気がついたことですが、車いす体験等でご協力いただいた NPO 法人ファミリッシュについては、委員のメンバーにも入っておらず、報告書にも記載がないので、ご協力いただいた団体名などを報告書に記載した方が記録として良いのかなと思います。

若林部会長 ・他にいかがでしょうか。

鈴木委員 ・学習発表会では、授業参観日に設定されたということもあり、大人の参加が多かったわけですが、今後の活動の拡がりのヒントになるのではないかと思います。

- 若林部会長 ・関係団体として参加いただいている社会福祉事業団から何かありますか。
- 社会福祉事業団 ・過去には学校によっては全ての学習に保護者をからめた学校もありました。次の実施に当たっては、発表会はもちろん個々の学習についても保護者の方の参加について、事務局から学校にお伝えいただければよいと思います。また、今回、自分たちのまちと新都心でのまち歩き学習を実施しましたが、そのことによってバリアフリーの整備状況の比較まではされると思いますが、さらに自分たちに何ができるのかということまで考えていただきたい。自分たちが大人になったら何ができるのかなどのテーマを先に学校でやっておく、また、行政に対して何を望むかといったことをテーマとすると面白い企画になるのではないかと思います。
- 若林部会長 ・社会福祉協議会からはどうですか。
- 社会福祉協議会 ・本会では、今回、植水地区社協に講師等お願いしました。自分たちの地域には地区社協というものがあるということ、また普段から小学生の方たちも地域の方に見守られていることなどを気づききっかけづくりになったのかなと考えております。来年度、実施予定の海老沼小学校は片柳地区になりますが、来年度についても地区社協に協力をお願いしたいと考えています。
- 小川委員 ・発表会のときに生徒の発表のなかで、まち歩き学習のときに点字ブロックが壊れていて、自分たちが大人になったときには直したいとの内容がありました。その時には子供と接する機会がなかったため教えられなかったのですが、区役所等に伝えると道路や点字ブロックは直してもらえることを事務局から学校に伝えてもらうことはできますか。
- 事務局 ・学校の方にお伝えさせていただきます。
- 若林部会長 ・他に意見等がありますか。
- 若林部会長 ・意見等ないので、次の議題にうつります。

(2)平成29年度福祉のまちづくりモデル地区推進事業(案)について

- 事務局 資料2の説明(省略)
- 若林部会長 ・事務局の説明について、委員の皆さん何かご意見等がありますか。
- 國松委員 ・学校として、これまでと同じ特性を学びたいとの意向もあるようですが、精神障害についても学ぶことができればと思います。学校側の意向もあるかと思いますが。
- 鈴木委員 ・内部障害などの一見分かりにくい障害あるということ学ぶことも大切だと思いますが、限られた時間のなかで、分かり易く実施するのは、なかなか難しいかと思いますが。ふれあい学習のなかでそういうものもあるということ学ぶだけでも十分かと思いますが。実際にまち歩き

をする際には、分かり易い車椅子とか視覚障害の体験をするなどした方がよいのではないかと思います。

若林部会長 ・内部障害については、以前も議論したことがありました。内部障害をテーマとすることはなかなか難しいかと思しますので、内部障害を表すマークがありますが、そのようなマークがあることを説明したり、情報提供したりすることでもよいのかなと思います。また、國松委員からご意見のありました精神障害についても大事なことだと思しますが、この事業の中で実施するのは、やはり難しいところもあるのかなと思います。

國松委員 ・モデル地区推進事業のような事業をもっと多くの学校でやって欲しいと思いますが、学校の先生も忙し過ぎて余裕もなく、なかなか実施されない傾向があります。そのような中で、毎年、この事業を学校と連携して実施していることは大変素晴らしいと思います。事務局ではご苦労されていると思いますが、どのような状況なのか教えていただきたい。また、このような事業は、他の市町村でもあまりやっていません。啓発はやりますが具体的な推進事業はやらないところが多いなかで、この事業は行政と学校と当事者の方々が連携・協力して、当事者の方々と触れ合い、子供たちもこれまで気がつかないことに気が付くという、とても大事な事業だと思います。

事務局 ・実施校の選定につきましては、過去には、なかなか了承がいただけないということもあったようですが、海老沼小学校におきましては、これまで福祉教育に熱心に取り組まれていたということもあり、校長先生からも快く了承のお返事をいただいたところです。

鈴木委員 ・いじめの問題とこの事業とは、実は密接に関係していると考えております。この事業によって子供たちが障害などについて理解をすれば、いじめは相当減るのではないかと思います。人を育てるとい根幹をこの事業でやっていると私は考えており、教育委員会や市のなかでもっと胸を張ってアピールしてよい事業だと思います。また、今回の海老沼小学校では、児童全員が発表する形式を希望されているとの説明がありました。私たちが発表会に参加して声が聞こえづらいとかも大事ですが、それは枝葉末節であって、子供たちが学んで発表すること自体にすごく大事な部分があると思っています。

鯨井委員 ・まち歩き学習の際には、今年度と同様に知的障害を学ぶ児童のみでグループを組んで実施していただけたらと思います。

若林部会長 ・発表会について、その成果の取りまとめを事務局にお願いしたいのと、発表形式については、児童皆が発表する形式がよいのかなと思います。

・また、発表資料の作成について、自分だったらどうするか、将来どうしたいかなどを記載す

るようにした方がよいかと思えます。

鯨井委員 ・1つ思い出したことがあります。児童が作成した発表の資料について、黄色とか色を使った資料もありましたが、見えづらいこともありましたので、せっかくバリアフリーについて学ぶ機会であるので、資料の作成についても配慮してもらえるように児童に伝えることも大切だと思います。全員が発表することは大事だと思いますが、全ての発表を聞くことは難しいので、当日の発表資料を参加者にも配布していただけるとよいかと思えます。

小川委員 ・我々は視覚障害なので、色などはよく見えませんので配色などはよいのですが、やはり発表資料がいただけると、自分たちの団体の中でも色々と報告もできるので、発表資料があると助かるかなと思えます。

鈴木委員 ・学校への支援について、大変忙しいなか参加した学校について、他の学校もやってみたいという気持ちをいかに起こすかという観点から、例えば福祉のまちづくり貢献賞などの顕彰・評価をして、市報やホームページ等で公表していくことも支援の一つとして考えられるのかなと思えます。子どもたちも自信にもつながると思えますし、手を挙げる学校も増えるのかなと思えます。また、保護者や地域の方々の参加も増えるのかなと思えます。

國松委員 ・以前、岩槻の学校での事業に参加して感じたことですが、生徒が何を学ぶかという振り分けも難しい部分があるのですが、たしか写真係もあったかと思えます。熱心に学習に取り組む生徒もあるなかで、ふざけ合って記念写真を撮るような生徒も見受けられましたので、事務局には、視点がずれないように準備をお願いしたいと思います。

町田委員 ・植水小学校の発表会に参加して、当日発表資料を見ました。良い内容ではあったのですが、それを事務局でまとめるのは大変手間もかかる作業になってしまうと思いますので、児童が作成した資料の写真を撮って、それを印刷するのがよいかと思えます。

木次委員 ・今回は4年生でしたが、次回は6年生を対象に事業を実施します。6年生となると、中学にあがっていく一番難しい、一番大事な時期になります。逆に言えば、自主性も大事になってくるかと思えますので、あまり事前にサジェスションをしないで、発表資料を作った方がよいのかなと思えます。するとしても基本的な考え方だけに留め、具体的な形を提案してしまうと皆同じようになってしまうので、そのようなことはしないで資料を作る方がよいのかなと思えます。絵が得意な子は絵を入れるでしょうし、まとめ方が上手な子はよく考えて作るでしょうから、自分のまとめ方によって、自分の考えを整理させるという作業をさせることで、児童のステップ・アップにつながるのではないかと思えます。

若林部会等 ・次回の開催は見沼区になりますが、片柳地区社会福祉協議会の方でも参加していただくよ

うになるのでしょうか。

社会福祉協議会 ・次回の協力について、まだ片柳地区社協には話をしていないのですが、今年度の植水での活動について話をしながら協力をいただけるよう話をしていけたらと考えています。

若林部会長 ・地域の方々の参加を促す取組として、朝、児童が登校する際に世話をいただいている方々などにも、お声かけをしていただければと思います。

町田委員 ・障害について、児童の理解が広がらないことがあります。小学生のときに障害について学ぶことによって、将来子供たちが大きくなったときに意味があるのではないかと思います。例えば、小学校の頃に手話を学ぶという機会があれば、若い時期から手話通訳を目指す子どもが増えることもあると期待していますので、引き続きよろしく願いいたします。

若林部会長 ・事務局に確認しますが、今後のスケジュールはどうようになっていますか。

事務局 ・まだ、具体的な日程は決まっていますが、現時点では、ふれあい学習を2学期、9月から開始したいと考えております。今後、学校と調整させていただき、日程等決まりましたら、委員の皆様にご案内させていただきます。

若林部会長 ・先ほど、少しお話ししましたが、当事業にご協力いただいている NPO 法人ファミリッシュの方にもこの場にオブザーバーとして出席いただくこともよいかと思います。事務局の方で、検討をお願いします。

若林部会長 ・他に意見等がありますか。

若林部会長 ・ないようですので次にうつります。

4 その他

若林部会長 ・次第の4 その他 ということで、何かご意見等ございましたらお願いします。

若林部会長 ・ないようですので、進行を事務局にお返しいたします。

5 閉会

以上